

教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）		講義	非常勤講師 山野 悟
科目カテゴリ	教職科目	科目ナンバリング	11520204 12520204 13520204

1. 授業のねらい・概要

よい授業を形成している要因を理解し、授業づくりの基礎・基本を修得できるようにする。また、授業づくりにおける基本概念（教育内容、教材、教具、発問・指示・説明などの教授行為等）や学習モデル（アクティブ・ラーニング型の学習指導等）、教授理論、授業の原理・技術、授業の計画・実施・評価、学習形態、情報通信技術（ICT）、情報活用能力等について理解できるようにする。

2. 授業の進め方

「学校現場の実際」、「教育方法学の基本概念」、「授業づくりの実際」、「情報通信技術を活用した教育」の4項目で構成し、学習指導要領総則等も活用して教育に関する興味や関心を広げたり高めたりする。

適宜、授業づくりについて具体的に考える場を設定し、個人やグループでの活動を併用し、自らの考えをまとめ、発表する機会を通して教師の資質として重要な思考力、判断力、表現力等の一層の向上を目指す。

さらに、アクティブ・ラーニングとして、事前学習型授業、調査学習、対話・議論型授業、グループワーク、リフレクション等を用いるとともに、ICT活用のとして、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出を採り入れていく。

3. 授業計画

1. 今後の授業概要及び教育方法論の歴史に関する基礎・基本的な概念	9. 情報活用能力の育成Ⅰ－教育におけるコンピュータの利活用－
2. 学習指導法と学習モデルⅠ－系統学習モデルと経験学習モデル・問題解決学習－	10. 情報活用能力の育成Ⅱ－教育におけるインターネット利活用－
3. 学習指導法と学習モデルⅡ－発見学習モデルと一般的な教授・学習モデル－	11. 情報通信技術（ICT）を活用した学習－斉学習、個別学習、協働学習－
4. 教育内容と教材Ⅰ－教材とは、教育内容とは－	12. オンライン・リモート（遠隔）による学習指導－合同授業型、教師支援型、教科・科目充実型－
5. 教育内容と教材Ⅱ－生徒の実態を踏まえての教材の意義と教材観・生徒観－	13. デジタル教科書・教材・黒板や反転学習とEdTech(EducationとTechnologyテクノロジーの力で教育にイノベーションを起こす取り組み)
6. 教材と教授行為Ⅰ－ふたつのパターンの授業の比較、授業評価等－	14. 情報モラル教育－情報通信技術やインターネットの光と影－
7. 教材と教授行為Ⅱ－教授行為と発問、指示、説明等－	15. 教育方法論－講義のまとめとふり返り－
8. GIGAスクール構想と求められる情報通信技術（ICT）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- シラバスの授業計画の範囲について、最低1時間の予習及び授業内容について最低1時間以上の復習を行うものとする。（事前・事後学習）
- 配付プリントに目を通し、穴埋め箇所をテキストや検索資料をもとに考えておく。
- 小・中学校や高校において、これまで児童・生徒として受けてきた授業を思い出し、それらの授業とのつながりを具体的な例として、「教育方法論」の視点から分析・考察し、ノートにまとめておく。（授業最終回に、課題分析レポートとして提出）

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施（ミニテスト）の際、レポートに対するコメントと試験における解答のポイントおよび出題意図の説明を試験終了直後に実施する。

6. 授業における学修の到達目標

1. よりよい教育を行うための哲学的基礎を理解し、よい授業を形成するための重要な要件を4項目にまとめて述べるができる。
2. 学習モデルの弁証法的発展について理解し、それとつなげて授業づくりの基本的な段階の意味・意義について述べるができる。
3. 情報通信技術（ICT）を活用する意義や理論、情報活用能力を育成する意義およびその育成方法について具体的に述べるができる。
4. 学習指導におけるコンピュータ利用及び学習指導におけるインターネット利用の形態について分類・整理して述べるができる。
5. 遠隔教育の類型や反転授業（学習）の形態やメリットを具体的に説明することができる。
6. 情報モラル教育（情報通信技術やインターネットの光と影）を具体的に説明することができる。
7. 被教育者として受けてきた学習体験（授業）のなかから、印象に残る特徴的な授業について、講義で学習した分析の視点を駆使して授業を考察するレポートを記述することができる。（分析項目として8語句以上の使用）

7. 成績評価の方法・基準

ミニテスト 40% （筆記試験／受験資格は3分の2以上の出席をした者）

課題レポート 30% （被教育者としての体験授業の分析レポートー学習した分析用語等を駆使してー）

※課題のテーマ、分量、作成の項目例等については、「授業通信」で連絡する。また、レポート用の指定の用紙を事前に配付する。

授業への参画度 30% （授業への参加・参画度、貢献度、教師としての資質、発言内容、コメント記入等）

8. テキスト・参考文献

〔テキスト〕

（1） 文科省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年版）解説』 東山書房

（2） 授業前配付資料等（PDFファイル等）

〔参考文献〕

（1） 池野正晴（2023）『新しい時代の授業づくり』（改訂第7版）、東洋館出版社

（2） 文科省（2020）『教育の情報化に関する手引（追補版）』、文科省HP スマホやタブレットに登録しておく

9. 受講上の留意事項

- 対話形式を重視し、「その場に居て実例等について実際に考え、話し合いに参加する」ことを大事にしたい。「教師になる」という当事者意識をもって参加・参画する。
- ペアワークやグループ討論では、積極的に参加し、自分の意見を表現し、相手の意見も尊重しながら聴くようにする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、教育機関における教員としての実務経験（小中学校教員、小中学校校長、教育行政職；生涯学習機関）を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。